

## 普通に受験できることのありがたさを忘れないで。

オリンピック直前といいながらその実感は全くなく、雨の降り方は何か不穏さを感じさせ、東京では緊急事態宣言が再び発出されて感染症の再流行が危惧されるという、これまでにないおかしな社会状況が続いています。幸いなことに山口高校には大きな影響がありませんが、全国には受験どころではない人も大勢いるはずです。これまでできたことができなくなった人、親しい人やこれまで築いてきたものを失った人もいます。そのような中、我々は「普通に」夏を迎えることができた。このことにまず感謝し、「与えられた時間と機会を大切に使う」ということを胸に刻み込まなくてはなりません。

## この夏の過ごし方がみんなの今後を決める！

みなさんに与えられた日数は共通テストまであと179日、前期試験まであと220日です。21日からの夏季休業をどう過ごすかプランは立てていますか？ **この36日は夏以降のみなさんのあり方を大きく左右します。**強い心をもって、そして正攻法で一日一日をしっかりと使い切りましょう。

授業やテストを通して感じるのは「入試に向けて『すでに本気で取り組んでいる』『取り組みつつある』『まだまだ』の三階層にみなさんが分かれており、『本気で取り組む』ことがまだ学年のメインストリームになっていない」ということです。みなさんどうですか？ 本気で学習に取り組み、本気で頑張ることができていますか？ 総体後、クラスの雰囲気は変わりましたか？ なんだかんだ理由をつけて、やらないといけないことを先送りしていませんか？ **受験において何よりも大事なことは皆さん自身が「絶対にあの大学に行きたい」と思って本気で勉強に取り組むことです。**「本気で勉強に取り組む」時間を意識的に作りましょう。

6月マーク結果を右に挙げていますが、残念ながらまだ先輩たちに追いつくことができていません。5教科総合720点以上の方が16人（昨年34人）、630点～719点の方が36人（昨年70人）にとどまっています。表の各教科の成績を見ても過去と比較して厳しい状況にあることが分かります。果たして先輩たちに追いつき、追い越せるのか？ 特に偏差値55以下の人、**この18年間で一番頑張る自分と出会う夏にしてください。**右下段の志望校攻略のためのポイントを大切にして、充実した夏を過ごしましょう。

(3年6月マーク5カ年成績は割愛しました)

- 1 志望大学と今の自分の力との差をきちんと知る。
- 2 どの科目をどれだけ伸ばせばいいのかを考える。
- 3 夏に何を、どう取り組むのか、計画し実践する。

まず志望校との距離を測らねばなりません。6月共通テストの総点と志望大学の合格ラインの「差」を確認しましょう。次に具体的取り組みを考えます。自分の持ち点と合格ラインに大きな開きがあるなら、理系は「共テ+数Ⅲ」、文系は「共テ」が当然この夏最大のミッションです。8月全統共通テストと9月進研駿台共通テストに向け、どの科目の得点をどのくらいまで上げれば目標に届くのか、具体的にシミュレートしてください。大切なのはバランスのよい得点をめざすこと。たとえば7割630点をめざすなら、どの科目も7割の目標得点を設定し得意科目に+5~10点、上げにくい（嫌いなではないですよ）科目は-5~10点の調整をかけます。

例：国135 数140 英140 理地②145 理地①70

総点の戦いは何よりもバランスが大切。このバランスでどの科目もほぼ得点できるようになれば、 $+α$ がすべて上乘せとなるので、7割の目標ラインが一気に越えられ、8割のラインへ接近できます。逆に理科・社会で遅れをとっていたり、得点率50%を超えられない苦手科目を持っていたりすると、目標への道のりは一気に遠くなる。自分の目標ラインをまず把握し、そこに確実に届くだけの基礎を固めてください。その基礎固めができないかぎり、もう一つ上への飛躍は残念ながら望めません。学習した内容を理解し、定着させ、間違えずに答えられるようになってはじめてテストの得点は上がります。

共通テストの目標ラインにほぼ届いている人は、定期的な復習と反復を怠らない（これ重要！）ようにしながら、2次試験問題へのチャレンジを始めてください。ただし、2次の目標得点ラインは難関大でいたい6割前後、満点は必要ありません。必要なのは解けなくてもいい問題と解かなければいけない問題を見極める力、そして解くべき問題を着実に解く力です。

では、以下は「この夏一番頑張る自分と出会う」ための注意事項です。

### ① どうすれば毎日10時間集中して勉強できるか？

7時までに起床、午前中に4時間勉強、これが鉄則。この4時間を習慣づけられれば、あとは午後4時間、夜2時間で目標達成。安定した睡眠の確保が集中力と記憶力維持の鉄則です。さらに集中力/作業密度を上げようと思ったら、「何時までにこれをやる」と期限と内容を設定する。人間の集中力は高まるまでに約30分、維持できるのは約90分です。それなら演習時間を90~120分で設定し、その後30分の休憩、それから2回目の90~120分演習と、4時間の学習時間を分割すればいい。もちろん就寝前の1~2時間（記憶のゴールデンアワー）は復習と暗記の大切な時間です。

## ② 苦手科目は本当に自分を伸ばすポイントなのか？

はい、そうです！ 簡単なことさえできていない苦手科目は要点ができるだけであっさり得点が上がります。簡単なことを怠ってしまったから今の苦手科目があるので、嫌がらずに普通の練習（授業のテキストやテストの復習）を得意科目と同じだけやってみましょう。苦手教科は宝の山だと気づくはずですよ。おまけに勉強がもっと楽しくなります。

## ③ 苦手から逃げて科目を減らす未来は明るいのか？

苦手な科目を減らし、好きな科目だけで戦うことは、努力をしてもこれ以上得点をあげにくい科目に絞って戦っているということにつながります。浪人生も5教科型でがんばっていた人は意外にあっさり伸びていくけれど、3教科型の人にはなかなか伸びない。伸びきった科目だけを選んでい

\* 何から手をつけたらいいのか分からない人へ、まずは3教科の第一歩

国語 春からこの夏までの復習と『夏の課題』。『古典』課外や『朝学』『マスター』を夏の  
ペー  
スメーカーにしましょう。今から課外に参加したい人も大歓迎です。

数学 苦手単元のFG問題はきちんとやっておこう。

英語 毎日コツコツやる！ 何をやればいいのか？ それは「英語科通信」と「模試分析」に書いてあります！ 必ず内容を確認して、必要なことに取り組んでください。

\* 次に、理系は理科、文系は地歴・公民

理科 『考査・模試のやり直し』『授業プリントや授業ノートの復習』をして、やってきたことがいつでも活用できるようにしよう。

それぞれの現在の理解度や状況に応じて、教科書や問題集を活用しましょう。

地歴 この夏休み中に、既習範囲の復習を終わらせる！

理系も、本腰を入れるともっともっと上がります。もちろん、文系も。

公民 授業や課外はライブ、生き生き受けるよう心がけて！（他の教科も同様ですが）

そして倫政ライブ！ 知的好奇心をもって、日々の身の周りのニュースや新聞に関心をもちましょう。

**☆結果が出るには時間がかかる。**

**夏の努力は秋に、秋の努力は冬に、そして1年間の努力の結果は春に出ます。努力を信じて、自分を信じて、この夏を最高の夏にしましょう。**